

交通ルールを守って  
つながる笑顔



# かながわの交通

2013

9

交通安全年間スローガン 警察庁長官賞(歩行者・自転車利用者に対するもの)

## お年寄り 孫のお手本 いい横断



まつだ観光まつり大名行列 (足柄上郡松田町)



自転車はどこを走ったらいいの...? 教えて!

自治会・企業・高齢者の集まりなどで

**チリン・スクール** を一緒にやりませんか。



◎県内の交通事故発生概況(8月末)

年別	区分	発生件数	死者数	傷者数
平成25年		22,086	98	26,392
平成24年		23,925	102	28,521
増減数		-1,839	-4	-2,129
増減率		-7.7	-3.9	-7.5

◎県人口・運転免許人口

	総数	男	女
県人口	9,079,998	4,544,031	4,544,031
免許人口	5,556,822	3,224,403	2,332,419
割合	1.6人に1人	1.4人に1人	1.9人に1人

(県人口は平成25年8月1日、免許人口は平成25年7月末現在)

## 平成25年度 秋の全国交通安全運動

～9月21日(土)から30日(月)までの10日間～  
9月30日は交通事故死ゼロを目指す日

### 目的

すべての県民を交通事故から守るために、県民一人ひとりが交通安全について考え、交通ルールの遵守と交通マナーの向上に取り組むことを通じて、交通事故防止の徹底を図ります。

### スローガン

- ・安全は 心と時間の ゆとりから
- ・高齢者 模範を示そう 交通マナー

### 運動の基本

- ・子どもと高齢者の交通事故防止



### 重点

- 1 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止 (特に、反射材用品等の着用推進及び自転車前照灯の点灯の徹底)
- 2 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- 3 飲酒運転の根絶
- 4 二輪車の交通事故防止



### 交通安全協会の推進事項

- ・ キャンペーンやイベントなどの開催により、運動への参加を呼びかけるほか、地域や職場等での自主的な活動や交通安全講習会への積極的な参加を働きかけます。
- ・ 交通指導員や各種団体構成員による街角アドバイスを積極的に実施し、「交通安全ひとこえ運動」や「ハンドルキーパー運動」を推進します。

## 交通安全子どもサミットの開催

～ 僕たち、私たちが未来を創る ～

- 日時 平成25年9月22日(日)午前10時から午後0時まで
- 場所 厚木市立清水小学校(厚木市妻田西3丁目18番1号)
- 出演者

- ① 厚木市立清水小学校児童 15人くらい
  - ② 石川正一郎 神奈川県警察本部長
  - ③ 宮崎 緑 千葉商科大学教授
  - ④ 小林常良 厚木市長
- ※ 県協会専務理事、厚木警察署長等が陪席し、傍聴者として児童、保護者、交通ボランティア等が参加します。



- 内容  
事前に児童から聴取した交通安全に係るアンケート(交通マナーの現状、未来に向けての希望等)結果を児童が発表後、道路交通の現場を児童がどのように感じ、どのような行動を取っているか、画像事例を活用するなど児童との意見交換等を通じて、未来を担う児童による交通安全提言などを行う予定です。

## TSマークを貼りましょう!

TSマークには  
保険が付いているので安心です!

年に一回、自転車安全整備店で、点検・整備を受けると、そのしるしとしてTSマークが自転車に貼付されます。

TSマークには賠償責任保険と損害保険の2つがセットになった1年間の付帯保険が付いているので、もしもの時に安心です。

お近くの自転車安全整備店へご相談ください。



このマークが目印です!

## TSマークの種類と付帯保険の補償内容

TSマークの種類	第一種TSマーク (青マーク)	第二種TSマーク (赤マーク)
賠償責任保険	100万円	100万円
損害保険	1,000万円	2,000万円



## 交通安全子供自転車大会に出場して

第44回県大会団体優勝、個人総合第2位 第48回全国大会団体第8位、個人総合第2位  
厚木市立清水小学校6年 藤岡美佳

全国大会に出場するまでにたくさんの練習をしてきました。自転車大会の初めての練習の時は、こんな難しい事が私にできるかどうか不安でいっぱいでした。厚木地区予選を通過し、県大会に出場することになって練習にも、より力が入りました。私は特に苦手だったジグザグ走行を中心に練習をがんばりました。

県大会は7月6日(土)に横浜文化体育館で行われました。県大会では優勝できましたが、全国大会に向けて反省することがあったので、また練習をがんばりたいと、その時は思いました。

私は、遅乗り走行、S字走行、ジグザグ走行の3つを特に気をつけて練習したり、安全確認や合図をしっかり大きな声で練習しました。練習が終わった後もチームの仲間と学科の勉強をしました。全国大会の前日に東京に行き、全国大会の当日の朝に最後の練習をしました。

そして、本番が始まり学科テストの問題の内容を見て難しいとは思いましたが、今までの勉強してきた事を思い出せばできると思ったので、しっかり今までの練習の成果を出す事ができたと思いました。次に実技が始まり、安全走行ではしっかりと声を出せました。朝の練習ではあまりできなかった技能走行も、少し緊張して手がふるえたけど、いつもより上手にできたのでほっとしました。テストが全て終わり表彰式が始まり、よばれるかどうかドキドキしてた中で8位の時に、「神奈川県……」とよばれた時は嬉しくてチームの仲間とハイタッチなどをして喜びました。そして個人で私の名前がよばれた時は、思ってもいなかった声があまらませんでした。

団体で8位、個人で2位になれたのはたくさんの練習と監督はじめ大勢の方々の支えがあったからです。そして、子供自転車大会に出場してよかったです。



向かって左から5番目が藤岡美佳さん

## 第46回二輪車安全運転全国大会を振り返って



向かって右端が橋本監督

団体第2位『チームかながわ』監督 橋本紳二

去る8月3、4日の両日、三重県の鈴鹿サーキットで行われた全国大会で、団体成績第2位、個人成績ではAクラス総合優勝、高校生等クラス第3位、女性クラス第3位という輝かしい成績を収めることができました。

これまで選手として、またコーチとして全国大会に携わってきましたが、今期監督として初めて采配をふるい好成績を残せたことは、この上ない喜びであるとともに、選手個々の努力、頑張りはもちろん、支えてくれたコーチやサポーターの皆さん、そして県安全協会等のご理解とご支援の賜物と感謝申し上げます。

本年5月に実施した二輪車安全運転神奈川県大会で上位入賞した方々で、特別訓練チームを結成し、全国大会に向けての特別訓練の訓練状況を見て、全国大会に出場する代表選手を選抜しました。

猛暑の中で訓練を行うに当たっては、訓練生の体調管理と集中力の維持に配慮するとともに、毎週末に県運転免許試験場のコースを借用して訓練を実施することから、近隣住民への騒音にも配慮しました。

訓練では、全国大会に向け、県大会では実施しなかった競技課題を加えて設定し、選手全員が全ての競技種目をクリアできるようにまで繰り返し訓練を実施しました。具体的には道路交通法に則って道路を走る法規履行走行のほか、スラローム走行やコーナリングといった高速走行、一本橋や悪路走行といった低速バランスなどの技能走行訓練ですが、本番で行われる全国大会よりも間隔を狭くしたり、タイムを厳しくしたりして訓練を行いました。

振り返れば、訓練生、代表選手個々の反省検討を踏まえた前向きな訓練態度、健全な競争心、それを支えたサポーター、さらには訓練設備の補充や土日訓練など訓練環境が整った中で、関係者全員が一致団結し、『フォアザチームかながわ』に徹したことが好成績につながったものと確信しています。

来年も皆様方のご支援とご協力に期待しながら、さらに研鑽を重ねて団体優勝の栄冠を目指していく所存であります。ありがとうございました。

## 第35回自転車の安全な乗り方 足柄上地区大会

去る8月23日(金)、「第35回自転車の安全な乗り方足柄上地区大会」が、南足柄市体育センターアリーナで開催されました。大会には足柄上地区の南足柄市、松田町、開成町、大井町、山北町の1市5町の首長等を来賓として迎え、小学生チーム(19チーム)、母親チーム(4チーム)が参加しました。

午前中は、学科テストに続き交差点の右左折や安全確認、合図など、交通法規の履行状況を採点する安全走行テストが行われ、午後からはピンとピンの間を走り抜ける「ジグザグ走行」、規定の秒数以上で遅乗りする「一本橋走行」や「S字走行」などの技能走行テストが行われましたが、各走行テストの前には、昨年優勝・準優勝チームのメンバーによる模範演技が行われ、競技終了後には、くらし安全指導員による学科試験の解説が行われました。

各チームは、駐在所警察官や交通指導員などの指導を受けて大会に臨み、熱戦を繰り広げた結果、小学生チームの団体優勝は開成町「開成チャリーズ」、準優勝は開成町「開成南スターズ」、第3位開成町「開成ガールズ4」と開成町の小学校チームが上位を独占しました。母親チームの優勝は南足柄市の「スパークルハート」、小学生の個人の部では、優勝・佐藤里帆選手(開成町)、準優勝・大浦理愛選手(開成町)、第3位・荻野貴徳選手(山北町)でした。



● 募集期間

平成25年11月下旬～平成26年1月31日(金)まで(必着)

● 募集区分

1 一般部門A:一般及び学生(小・中学生・高校生も応募可)

運転者(同乗者を含む)へ呼びかけるもので、作品サイズはB2判(515<sup>mm</sup>×728<sup>mm</sup>)縦位置のみ

2 一般部門B:一般及び学生(小・中学生・高校生も応募可)

歩行者・自転車利用者へ呼びかけるもので、作品サイズはB2判(515<sup>mm</sup>×728<sup>mm</sup>)で縦位置のみ

3 こども部門:小・中学生に限る

小・中学生へ交通安全を呼びかけるもので、作品サイズはB3判(364<sup>mm</sup>×515<sup>mm</sup>)または四ツ切り画用紙(392<sup>mm</sup>×542<sup>mm</sup>)で縦・横位置自由

※1 障害をお持ちの方で上記作品サイズを描くことが困難な方は、毎日新聞社事業本部「交通安全ポスター」係へお問い合わせください。

2 各部門の平成26年使用内閣総理大臣賞受賞スローガン(平成25年11月下旬発表予定)を必ず原文のまま使う。ひらがなを漢字に直

平成26年使用 交通安全ポスターデザイン募集

した場合や句読点、括弧などの付加は失格。パソコンを使った制作、レタリング、イラストレーションの使用や、写真のデザイン化も可。

3 応募点数の制限なし。共同制作も可。

4 自作、未発表の作品に限る。

5 制作上の注意(危険性を訴える目的や抽象化したデザインの場合を除く。)

(1)信号機、標識、標示などは正しく描く。

(2)車内の人物はシートベルトまたはチャイルドシートを着用

(3)自転車は安全な利用方法で表現。(詳細はホームページ)

● 送り先

〒100-8051

東京都千代田区一ツ橋1-1-1

毎日新聞社事業本部「交通安全ポスター」係  
(電話03-3212-0190)

● 発表

平成26年3月中旬の毎日新聞紙上とNHKテレビ

● 表彰式

平成26年3月下旬

●●●●●●● 二輪車安全運転指導員募集 ●●●●●●●

二輪車運転について知識・技能・指導力を有する指導員を養成し、二輪運転者に対する積極的かつ効果的な交通安全教育を推進するため「二輪車安全運転指導員養成講習会・資格審査」を下記の通り行います。

メーカー・販売・修理等二輪車に関係する方々はもちろん、二輪車を愛し、二輪車の快適さ、そして安全運転技能・マインドを、ボランティアとしてライダーに伝えたい多くの皆さん、奮ってご応募ください。

① 日 時 平成25年10月19日(土)午前8時30分から午後5時まで。

② 場 所 神奈川県自動車運転免許試験場

③ 応募資格、条件

20歳以上で、二輪免許又は原付免許を持ち、運転経験が3年以上あり、過去3年以内に行政処分を受けたことがなく、かつ悪質な交通違反を犯していないこと。その他、指導員としてふさわしい者であること。

※ 運転記録証明書必ず持参してください。

④ 内 容

- 養成講習会 ～ 適性検査、学科講習、学科試験
- 資格審査 ～ 実技審査(一本橋、急制動、スラローム)面接審査

⑤ 費 用

- 講習会、資格審査料 3,300円
- 合格した場合の資格認定料 2,000円



⑥ 服装等

服装は、二輪車の乗車に適したものとし、ヘルメット、プロテクターを持参してください。(プロテクター借用希望者は、申込用紙所定欄に記載する。)

※1 実技審査は、受験者の持ち込み車両で実施しますが、最終合格の場合、その際使用した原付・普通二輪・大型二輪別にその車両以下の二輪運転者の指導が可となる。

2 申込用紙は二輪車販売店、県安協にあります。詳細は県安協ホームページをご覧ください。

その294 海老名市交通安全協会

海老名市交通安全協会(佐久間幸志会長)では、海老名運動公園陸上競技場における「2013えびな市民まつり」会場において、エアーバッグ体験コーナーの中で幟旗を掲出するなどハンドルキーパーの確保等飲酒運転の防止を呼びかけました。



ハンドルキーパー  
運動の紹介

その293 宮前交通安全協会

宮前交通安全協会(村野博会長)では、宮前小学校で交通安全サマースクールを行い高齢者疑似体験と併せて飲酒運転ゴーグルを活用し、飲酒運転根絶、ハンドルキーパー運動の実践を呼びかけました。



危険! 高速道路への立ち入り

～高速道路等へは歩行者、自転車、原付バイクは侵入禁止! 見たら110番～

高速道路や自動車専用道路への歩行者等の立ち入りが相次いでいます。神奈川県高速道路交通警察隊では、昨年1年間で189人の立入者(歩行者131人、自転車利用者43人、原付バイク運転者15人)を確保しましたが、その立入理由は、多い順に迷い人118人、認知症34人、知的障害9人、酔っ払い5人となっています。年代別では60歳から70歳代が74人と多く、80歳以上も28人いました。今年上半期でも251件の立入通報があり、そのうち80人を確保しています。立入理由は昨年と同じようなものですが、故意的に高速道路へ侵入したと思われる者も7人(パーキングに置き去り、散歩中に道に迷い柵を乗り越えた、携帯電話を紛失し探すため、夫と口論になり降車など)いました。

今年1月にはアクアラインに自転車で立ち入った78歳の認知症の男性が乗用車に跳ねられ死亡するという痛ましい事故も発生しています。もし歩行者などの立入りを見たらすぐ110番してください。



横浜新道入口に設置された看板

トピックス

《横須賀交通安全協会会長 テレビ出演》

横須賀交通安全協会の中村昌弘会長は、地元ケーブルテレビ「タナビトピックス」に横須賀警察署交通課の女性警察官とともに出演し、夏休み中の交通安全、事故防止について呼びかけました。

県内では二輪車死亡事故が多発し全国ワースト1位であること、特に管内は山坂が多いことから自転車よりも二輪車の利用も多く事故が多いこと、その事故は左折巻き込みや右直事故などが目立ち、事故当事車両からするとバイクが小さく見えまだ来ないと錯覚して起こす事故パターンなどを紹介しました。

最後に、二輪車講習の受講、子どもは家の近くで安心感から飛び出したりするので注意する必要があること、夏休み中に家族で交通事故に遭わないよう話し合っしてほしいなどと呼びかけました。



《都筑交通安全協会の窓口で》

免許会員の加入状況を平成23年度と平成24年度を比較しますと、都筑交通安全協会は、他地区交通安全協会が軒並み減少している中、加入者が21.3%増加しています。嶋原事務長に聞きますと、「特別なことはしていない」ということですが、「交通安全協会のしおり」等を活用しながら、例えば高齢者には代書サービス等親切丁寧な対応、いわゆる「ママさん運転手」には子どもに対する交通安全教室等の内容を説明するなど、協会活動に理解をいただけるよう対応時の勧誘に心がけているそうです。



## 交通事故の悲劇に学ぶ⑧

### ●「加害者」

目が覚めた瞬間、首に焼けるような痛みが走った……。ここは病院のベッドの上? とっさに手足を動かす。良かった動く……。何がなんだか分からない。いったい何があったのか……。今は朝? 自分はスーツ姿のまま。昨夜は確か3人で飲みに行っていたはずだ。車で……。

ぞっとした……。

事故を起こしたんだ……。他の2人は……。

今思えばこの日、この瞬間からそれまでとは全く別の人生が始まってしまった。

その年の2月、私は翌日が休みということもあり、仕事の後、会社の同僚2人と飲みに出かけた。私達はいつも通り同僚の車1台に乗り合わせ、歓楽街へと向かった。お店を何軒かハシゴし、私はビールなどを合わせて4~5杯程飲んだ。帰りは3人の中で一番酔っていないと感じた私が運転することになった。帰る途中、バトカーに止められ「飲酒がバレてはまずい。ウチは車関係の会社だ。クビになってしまう」そんなことを恐れた私は、あろう事か警察の隙を見て逃走してしまった。恐くてパニックになった私は、思いっきりアクセルを踏み込んだ。私の記憶は、ここでプツリと途切れてしまっている。

後の取調べや現場検証などで私が起こした事故の詳細を知ることができた。

時速100キロを超える高速度で走行したためカーブを曲がりきれず、ガードレールやブロック塀に車を激突させた単独事故だった。現場は悲惨な状況で車も元型を留めておらず、こうして生きていることが奇跡的だったという。同乗していた同僚の一人は重傷を負ったが今では回復して働いている。しかし、もう一人は頭部に重傷を負い、帰らぬ人となった……。

この翌月、彼は結婚式を予定していた。

私自身も怪我を負ったものの、何とかお通夜に参列することができた。ご遺族の方々を目の前にした私は謝ることすらできず、ただ泣きじゃくるだけだった。

ご両親の希望で、その場で結婚式を挙げることになった。彼にとって人生最良の日、最高の晴れ姿であるはずなのに私は地獄のどん底に突き落としてしまったのだ。

会場全体に埋め尽くす悲鳴のような泣き声全てが自分のせいだと思うと、全身に無数の針を突き刺されているようだった。

こんな人生がいつまで続くのか。死ぬまでこの思いを持ち続けていかなければならないのか。この先の人生が途方もなく長く思え、恐ろしくなった。

式の最後に、参列した友人らで歌をうたった。友の結婚を祝い、幸せを祈る歌だ……。本当なら幸せいっぱい同僚を祝い、皆が最高の笑顔で歌っているはずだった。

元気で、明るくて、楽しいことがとにかく好きで、彼は皆から愛されていた。私も彼が大好きだった。友達だった。

なぜ彼が……。なぜ私じゃなかったんだ……。

その後、私は逮捕拘留された。裁判は長引き、その間、外へ出るこ



とは許されなかった。判決はそれからおよそ1年後となった。法定でのご遺族の「あれから楽しい日は一日もない」という言葉が私の胸に重く響いた。私はその時初めて、直接謝罪の思いを告げることができた。ほとんど泣き叫んでいるようなものだった。いっその場に倒れ込んでしまいたかった。その声を聞いてくださったことがせめてもの救いだった。

判決は懲役3年、罪名は危険運転致死傷罪。私は、犯罪者になった……。

何でこんなことになってしまったのか……。以前は飲酒運転なんてしてこなかったはずなのに……。

事件前、こんなことがあった。

ある日、職場の皆で飲みに行った帰りのこと。私はいつも通り代行運転を呼んだ。しかし、他の上司やメンバー全員がそれぞれの車に乗り、飲酒運転をして帰って行った。後日人から「あいつってまじめだな」と言われていたのを聞いた。当然、悪い意味ではないのだろう。しかし、当時の私にはそれがどこか馬鹿にされているようで、「かっこ悪い!」ことのように思えた。その後、私は初めて飲酒運転をした、一度うまくいくと二度、三度と続き、いつの間にか飲酒運転を繰り返すようになってしまっていた。

分かっている、悪いのは自分だ。だが、今さらどんなに悔やんでももう遅い。もうどうすることもできない……。

今、私は市原刑務所で服役している。自分の行いを反省し、ご遺族には毎月一通、謝罪の手紙を送らせていただいている。「あなた一人の責任ではない。自分の命を大切にしてください」という言葉を頂いた。

私は一生、ご遺族の方々に謝罪を続けさせていただく。そして、同じような思いをする人、悲惨な交通事故を少しでも減らせるよう自分にできることを精一杯やっていく。彼の死は絶対に無駄にしたいわけではない。与えられたこの貴重な時間、一日一日を一生懸命生きていく。家族や自分の人生を大切にしていこう。しかし、私が取り返しのつかないことをしてしまったことに変わりはない。残された方々の悲しみは今も癒えない。

何より、それまで友人同士だった2人が一瞬で「被害者」「加害者」に分かれてしまうなんて辛すぎる。

どれだけ贖おうと、どんなに善い行いをしたとしても、私の罪は一生消えない。

友人の命は戻らない。

それがとても悲しい……。

~(一財)東京都交通安全協会編集発行「贖いの日々(第17集)」から~

### インフォメーション

- グッドライダーミーティング  
———— 10/5(厚木中央自動車学校)
- 自転車安全整備制度ブロック会議  
———— 10/10(東京都)
- 二輪車安全運転指導員養成・資格審査  
———— 10/19(運転免許試験場)
- 二輪車特別講習会  
———— 10/26(運転免許試験場)

### 賛助会員のご紹介

このコーナーでは、賛助会員としてご協力をいただいている企業等を順次ご紹介しています。(敬称略)

- 日産自動車(株)  
———— 横浜市西区高島
- 大和証券(株)  
———— 横浜市西区南幸
- (株)たいよう共済神奈川支店  
———— 横浜市中区本町



横須賀交通安全協会  
会長  
中村 昌弘さん  
なかむら まさひろ



本年6月12日の総会において、前戸崎信一会長の後任として横須賀交通安全協会の会長に就任しました中村昌弘さんをご紹介します。

中村会長の当交通安全協会での役員歴は、平成3年に理事、警察署協議会会長職を退任した2年前に副会長、そして創立以来65年も続いている、伝統ある横須賀交通安全協会の会長職を預かり、身の引き締まる思いのことです。

横須賀市は、山坂、トンネルの大変多い町で、地域の特性として通勤や通学、買い物などの移動手段として自転車よりも二輪車の利用が目立ちます。神奈川県下においては、交通事故全体に占める二輪車の関係する事故の割合が全国平均を上回っています。この横須賀地区でも地域特性等と相俟って二輪車事故

が多発しています。

会長は二輪車販売店を営むするかたわら、二輪車運転者の安全運転指導を行うため昭和51年には特別指導員の資格を取得し、昭和55年に横須賀二輪車安全普及協会を立ち上げ、今日まで地元二輪車販売店の指導員の皆様方と協力し、二輪車事故防止活動を進めてまいりました。二輪車運転者を指導して思ったことは、大型トラックはじめ、乗用車からバイク、自転車、歩行者が利用する混合交通の中では無理な運転を避け、決められたルールを守ることはもちろんですが、広く二輪車の特性を認識・理解してもらう必要を痛感したそうです。それには各方面に対して交通安全を働きかけている交通安全協会の活動に参加することで二輪車事故の防止に貢献できるのではないかと考え、入会

したそうです。

先般も、横須賀警察署の警察官と地元ケーブルテレビに出演し、これらの考えを含めて二輪車事故の防止を訴えたところです。会長によれば、「我が国では、交通安全教育が諸外国に比べて遅れている。よりよい交通社会人を多く育てるにはできるだけ幼少期より一貫性を持った教育が必要」とのことです。交通事故の撲滅は官民一体となった繰り返しの活動により多くの方々から訴え、理解してもらうことが大切で、そのためには横須賀警察署等関係団体の協力をいただきながら、横須賀の地域性に合った活動を辛抱強く進め、悲惨な交通事故を1件でも減らすよう活動を展開していきたいとの抱負を語っています。

会長は大型バイクのライダーとして各地へ出かけ写真撮影するなどの趣味をお持ちですが、今後とも一般二輪車ライダーとして、また二輪車運転指導員としての経験、これまで培ったノウハウ等を活かして、地域の交通安全に「尽力をお願いします。」  
(取材協力：横須賀交通安全協会)

こんにちは  
「藤沢北交通安全協会」です

藤沢北交通安全協会は、昭和59年4月1日、藤沢警察署が2分割され、その北部を管轄する藤沢北警察署発足と同時に設立され、来年は30周年を迎えます。

藤沢市北部では、古くから住民の足となっている小田急江ノ島線に、平成11年、相鉄いずみ野線と横浜市営地下鉄が相次いで湘南台まで延伸して乗り入れ、湘南台駅を中心に商店街、住宅街を形成し、躍進を続けています。

相鉄いずみ野線の乗り入れにより、二俣川の運転免許試験場に乗り換えなしで行けるようになり、会員の入会率は年々減少しているのが悩みのタ

ネです。

そんな逆境の中、事務長と女性職員4名が交替制で勤務しながら、ひとりでも多くの方が交通安全協会に加入していただけるよう「親切・丁寧・笑顔」の3点セットをモットーに窓口業務にあたっています。

協会の事業としては、富田会長以下15名の理事を中心に交通指導員51名、7支部の代議員82名が毎月1日、15日の交通安全日の街頭指導、各季の交通安全運動における街頭指導、車両による広報、街頭キャンペーン等の活動を展開しております。特に夏・年末の両交通事故防止運動では、夜間街頭監視活動に毎年多くの皆さんが参加し、交通安全を呼び掛けております。

また、特に藤沢市では自転車の事故防止に力を入れており、毎月8日、



22日の「藤沢市自転車マナーアップの日」における街頭キャンペーン、管内の小学校における自転車教室に多くの交通指導員、代議員が参加して協力しています。

今後も、管内の交通死亡事故ゼロ、交通事故ゼロを究極の目標として、会長を中心に交通安全活動を推進していくとともに、事務局としても笑顔の窓口対応で、職員が一致協力して頑張っております。

(木内 記)

地区交通安全協会の活動紹介

あなたの会費が交通安全活動に役立っています



**磯子**  
県下で二輪車死亡事故が多発していることから区役所前駐車場で来場者(者)に、付近道路では通行車者にチラシやグッズを配布しながら、二輪車事故防止キャンペーンを展開しました。



**鶴見**  
JR鶴見駅デッキにおいて、母の会や安管等と連携して通行人に対してチラシを配布しながら、夏の交通事故防止を呼びかけました。



**藤沢市**  
管内のJR及び小田急線各駅において、安協市交対協警察署などの150人がカエル(無事帰る)のマスコットを配布するなど夏の交通安全を呼びかけました。



**座間**  
ホームセンターの店内及び駐車場において、座間市のキャラクター「さまりん」を登場させて、買い物客等にうちわやチラシを配布しながら交通安全を呼びかけました。



**加賀町**  
山下町町内会館において、児童60人、保護者12人を対象に夏休み母と子の交通安全映画大会を開催し、「鉄腕アトム」の交通安全」を上映し、グッズを配布するなど夏休み中の交通安全を呼びかけました。



**南**  
署長、区長、会長等挨拶後、弘明寺商店街に出向き、買い物客等につちわやガムを配布しながら、眠気とともに「事故を吹き飛ばそう」キャンペーンを展開しました。



**中原**  
大西学園高校ブラスバンド部が武蔵小杉駅前演奏を行う中、たすきを掛けた中原中学校の生徒が演奏を聞き入る通行人にチラシを配布するなど交通安全防止キャンペーンを行いました。



**秦野市**  
大型スーパーにおいて、曾屋高校ダンス部生徒がダンスを披露する機会に、「トマろう、マトウ、トび出さない」をキャッチフレーズにトマトとチラシをセイトで配布しながら横断事故の防止を呼びかけました。

編集後記

今年の夏の暑さは格別であった。そんな暑さの中、さらに暑くしてくれたものがある。

8月3・4日三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキットで開催された「第46回二輪車安全運転全国大会」において、本県チームが健闘し、団体総合第2位、クラス別で4クラス中、3クラスで3位以内に入賞するという見事な成績を上げ、本県チームの名を全国に知らしめてくれた。

本県では、二輪車の関係する交通事故が多く、二輪車の事故防止対策が喫緊の課題となっている。事故の原因を見ると安全不確認や前方不注意、操作不適切など二輪運転者に原因のある場合が少なくないことから、県警察や二輪車安全普及協会では、運転技術の向上と交通ルールとマナーを重んじるグッドライダーを育成し、二輪車事故の防止を図ろうと「二輪車特別講習」や「グッドライダーミーティング」などの参加・体験・実践型の安全教育を積極的に開催している。

講習は、白バイ隊員や二輪車安全普及協会の特別指導員などから、交通ルールと運転技術の基本から応用走行まで熱のこもった実技指導を受けることができる。多く、二輪運転者が参加している。今回、本県チームの成績はこの講習を通じて、さらに高度な運転技術を求め、競技大会を目指すが、ライオンが多数現れたことによるものであるが、二輪車事故防止には、運転者の安全意識を高めるとともに、運転技術の向上を図るための安全講習は極めて重要である。より多くの方が講習会に積極的に参加をしていただき、受講していただいたグッドライダーや、こうした大会を目指すライダーが実際の交通の場で模範運転を行い、二輪車運転のマナー向上とともに、二輪車事故防止を広げる先導者(車)となつていただくよう期待している。

秋の全国交通安全運動が今月21日から始まります。また、運動期間最終日の30日には「交通事故死ゼロを目指す日」が実施されます。

地区協会の皆様には、悲惨な交通事故を1件でも多く減少させるため、地域における効果的な運動を展開していただくようお願いいたします。

(N.N. 記)